

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【9 月 10 月度の御金言】されば日蓮貧道の身と生まれて、父母の孝養心にたらず、国の恩を報ずべき力なし。今度頸を法華經に奉りて、其の功德を父母に回向せん、其のあまりは弟子檀那等にはぶくべし。

【種種御振舞御書】(全集 913 頁)

法華講信条

- 1、謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1、行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1、ただ一言でも妙法を伝える勇氣を持とう。(破邪顯正)
- 1、どんなことがあっても憶持不忘の信心を買こう。
- 1、現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1、成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1、御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覺を持とう。
- 1、噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1、妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991 年 2 月 13 日掲揚

☆どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。

生きていれば、必ず苦しい事、悲しい事、辛い事、悔しい事、人間関係のもつれ、病気、事故、災害、老い、衰え、死の恐怖等々が降り注ぐ様に逃げられない様に次から次にやってきます。これが、どんなことがあってもという事であります。【禍福はあざなえる縄のごとし】表になったり裏になったり、それが人生だと思います。その苦しみを悪用して現世利益の甘い言葉【功德】と、おどしの言葉【罰】を使い分けて、多くの人々の心人生を洗脳コントロールする宗教が世界中に数え切れないほど存在しているのであります。創価学会も日蓮大聖人の法のどこにも無い、【人間革命】【宿業を断ち切る】【宿命転換】の現世利益丸出しが日蓮大聖人の法であるかの様に多くの人を誤り導き煽り、組織を拡大して行きました。生きている以上福を受け続ける事は出来ません。わざわざから逃げ切る事も出来ません。福と思っていたことが、長い眼で見た時、実はわざわざであったり、わざわざいだと思っていたことが実は福であったりするのが人生や社会だと思います。日蓮大聖人の説かれた一切衆生平等成仏の南無妙法蓮華經の法は、わざわざを受けないように逃げたりすることなく、そのわざわざを変毒為薬していく力が、自分の生命に具わる南無妙法蓮華經の仏種仏性に有る。どんな極面でも、仏の生命を信じて、苦しい事、悲しい事、辛い事、悔しい事、人間関係のもつれ、病気、事故、災害、老い、衰え、死の恐怖等々を受け止めて生きて行こうという試され練られる試練であると説かれているのであります。どんな事があっても永遠常住の生命に仏の生命が具わっている事を信じ忘れてはいけない。人生は今だけではないよ、永遠だよ、永遠の中で自分の生命、全ての生命を考えなければいけないよと励ましているのであります。